

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

年間テーマ	自然との関わり
園名	なでしこ保育園
クラス	うさぎ組 2歳児
活動日	令和6 年 12 月 16 日

1. 活動テーマ

《テーマ》

自然にふれる事を楽しみ、みつけてみよう

《テーマ設定理由》

子どもたちがどんな自然物に興味があるかを知る為、好きな自然物を見つけてもらうことにした

2. 活動内容

・絵本の読み聞かせを行い、様々な自然物がある事を伝える。・自分の興味がある自然物を見つける

3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

・お散歩バック(中身が見えるように、透明のジップロックを用意する。手が自由に使えるように、紐をつけ肩掛けにする。

4. 探究活動の実践(子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり)

・探索前に外で読み聞かせを行う。普段、室内で読み聞かせが定着している事もあり、「ほん？」と驚いた様子の子どものもいた。袋をそれぞれに渡すと「いっぱい葉っぱを入れる」「いっぱい入れる」などの声が聞かれた。

・保育者「何の実だろう？」

子ども「ブルーベリー」

ブルーベリーを探し始めると、どんぐりを見つける。それをきっかけに、自然にみんなでどんぐり探しが始まる。保育者が葉っぱの下にどんぐりがあることを伝えると、葉っぱをかき分け探し始める子どももいた。見つけた子どもは、「みんなー、こっちにあるよー」と教える姿が見られた。

保育者「どんぐりは大きくなるかな？」

子ども「ならない」

・後半になると

子ども「どんぐりの穴から虫が出てくる」「どんぐりジュースを作る」
落ち葉、花びらを集めた子ども

「葉っぱのお家作る」

「花びらのお家を作っていた」などそれぞれ知っている事、やりたいことを言い始める。

最後に袋に入れたものをそれぞれ見せてもらう。興味があまり見られなかった子どもも袋いっぱい落ち葉、どんぐりなど袋に入れていた



5. 振り返り

・自分専用の袋がある事で、はりきって探そうとする様子がみられたが、いざスタートとすると何を探して良いかわからない子どももみられたり、とりあえず何でもよいから袋いっぱいに入れようとする子どももいた。保育者が声がけしていくことで、少しずつ自分で探そうとする姿も見られたり、子ども同士で「ここにあるよー」などのやり取りも見られるようになってきた。時間後半になると、拾った物で「どんぐりジュースを作りたい」や、楽しかったとの言葉も聞かれ終えている。保育者からの子どもに対しての言葉がけが少々多く見られた事もあり、次回は子どもの発見や気づき、子ども同士のやり取りが見られるような環境設定をしていきたい。

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

年間テーマ	自然との関わり
園名	なでしこ保育園
クラス	うさぎ組 2歳児
活動日	令和7年1月14日

1. 活動テーマ

《テーマ》

・自然に興味を示し、自ら発見することを喜ぶ。

《テーマ設定理由》

・毎日の散歩の中で自然にふれて遊ぶことを楽しんでいるが、どこか受容的であった。子どもが自分で興味のあることを見つけ、その発見を喜んで友だちと保育者と共有できると良いと感じたため。

2. 活動内容

・導入として絵本を見る。(はやしでひろったよ)
・袋を渡し、自由に散策をする。今回はチームを分けず個人での行動にする。
・20分ほど自由に散策し、拾ったものを袋に入れる。
・集まって一人ひとり何を見つけたか、拾ったもので何をして遊ぶかを発表する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

・袋・絵本

4. 探究活動の実践(子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり)

・今回はチームを分けず自由に散策を始める。

子A:「(ミミズを見つけ)動いてるね」

保:「そうだね、元気だね」

子A:「みんなー!ミミズさんがいるよー!」

子B:「あつまってー!」

興味を示し、集まってくる子どもたち

子C.D:(ミミズを見て)持ち上げる棒を探しに行く。

子C.D:棒を使ってミミズを持ち上げようとする。

子C:「ぼくがミミズのお母さんだから!」と言って取り合いをする。

その後しばらく観察を続け、他児も気になって見に来る。

子E:「ミミズ、動いてるけど元気ないね」

保:「ミミズさんかわいそうだから、戻してあげようか」

子B:棒を拾ってきて「私が安全なところに避難させてあげるね!」

～各自また探索を楽しむ～

集まって各自拾ってきたものを発表する時間を設ける。

・どんぐりだけを集めた子は「どんぐりできのこを作ります!」と大きな声で発表する。

・自分が集めたいものが見つからず、慌てて直前で近くに落ちていた葉っぱを拾う。

・探したが「おせんべいなかった」(普段木の皮をおせんべいに見立てて遊んでいた。)

・注目されて恥ずかしがる子もいた。

5. 振り返り

・普段何気なく遊びの中で保育者が発見したものを伝えたり、あっちに何があるかな?と促すことが多かったので、子ども主体を心掛けた。最初はどのようにいいか分からず保育者の近くで様子を伺う姿が見られたが、友だちが何をしているかを見て一緒に探索を楽しんだり、発見したものを共有しようとする姿が見られた。1人での探索を楽しむ子、お気に入りのものが見つけれない子、積極的に見つけたものを保育者に見せに来る子など様々な姿が見られた。子どもの気付きを大切にしながら、困っている子には保育者が少し手を貸してあげることで広がる世界があるのではないかと感じた。



とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

年間テーマ	自然との関わり
園名	なでしこ保育園
クラス	うさぎ組 2歳児
活動日	令和7年 1月 27日

1. 活動テーマ

《テーマ》

第3回目 色々などんぐりを探そう

《テーマ設定理由》

様々な場所に行き、どんぐりを見つけると興味を示し拾う子どもも見られる。場所によってどんぐりの形や大きさが違う事、どんぐりにも種類がある事をしってもらう

2. 活動内容

それぞれがどんぐりの写真を持ち、自分が見つけたどんぐりが写真の中にあるかを見つけ名前を覚える

3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

どんぐりがある場所を下見し、安全であることを確認する。お散歩バック。どんぐり写真(1人ずつ持たせる)

4. 探究活動の実践（子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり）

どんぐり写真をそれぞれに渡すと、さっそく同じのあるかなー？と探し始める。どんぐりを見つけると「あるよ、みてみて」と保育者にみせてくれる。場所を移動し、保育者がどんぐりを見せると「自分で調べてみる」と言って写真の上へのせ、「これじゃない？」と合わせ始めたり、子ども同士で「一緒？一緒じゃあない？」とやりとりもみられた。また割れたどんぐりを見つけ、皮を向き始めると興味深々！皮が向けると「ナッツみたい」と言ってむき始める子どもたちの姿がみられた。



5. 振り返り

1人ひとりにどんぐり写真を持たせる事で、どんぐりを探して写真と合わせようとしたり、友だち同士で合わせてみたりやりとりをしながら取り組む様子も見られている。公園内でもいくつかのどんぐりの種類があるが、一つひとつの移動に時間がかかり限られた時間の中で見つけるのが少々難しさもあった。

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

年間テーマ	自然との関わり
園 名	なでしこ保育園
クラス	うさぎ組 2歳児
活動日	令和7 年 2 月 6 日

1. 活動テーマ

《テーマ》

第4回 どんぐり虫を探そう

《テーマ設定理由》

どんぐりころころむしの絵本を読む機会があった。数日後公園に行くと子ども側から「どんぐりの中に虫がいるかな」との声が聞こえたので実際に公園で穴の開いたどんぐりを見つけることにする。

2. 活動内容

- ・導入として絵本を見る。(どんぐりころころむし)
- ・個々にお散歩バックを渡し穴の開いたどんぐりを探す。
- ・拾ったどんぐりを友達同士で見せ合う。
- ・散策後顕微鏡を使って拾ったどんぐりを観察する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

- ・お散歩バック、絵本、顕微鏡(手のひらサイズ)

4. 探究活動の実践(子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり)



・穴の開いた場所から虫が出てくる場面では、ぐっと表情が変わり夢中になって絵本の世界に入っている。



・穴の開いたどんぐりを発見すると嬉しさと同時に「これ?」と言って保育者に確認する事も多かった。



・探したどんぐりをそれぞれのお散歩バックに拵げてみる。



・初めての顕微鏡の使い方に戸惑っていたが、次第に使い方にも慣れ覗く角度を変えてみたり友だち同士で見せ合っていた。

5. 振り返り

第4回目ということで子どもたちも少しずつ活動に慣れてきた様子が見られた。導入で絵本を読むことにより子どもたちもイメージが付きやすかったようですぐに穴の開いたどんぐりを子どもたち自身で探すことができていた。実際にどんぐりの中に虫がいることはなかったが、初めての顕微鏡で上からや斜め下からなど角度を変えて覗くことも次第に出来るようになっていた。積極的にどんぐりを探す子ども、伸び伸びとかけっこを楽しむ子どもたちなど様々だったが自然と子どもたちから探してみたい。もっと知りたいという気持ちが芽生えるような導入の仕方など今後も様々な工夫していきたいと感じた。

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

年間テーマ	自然との関わり
園名	なでしこ保育園
クラス	うさぎ組 2歳児
活動日	令和7年2月20日

1. 活動テーマ

《テーマ》

第5回目 ・冬ならではの自然に触れる

《テーマ設定理由》

・普段の散歩の中で、霜柱を見つける。子どもたちが興味を示し、触ったり踏んだりして感触を楽しむ姿が見られたので今回のテーマに設定した。

2. 活動内容

- ・霜柱があるであろう場所に向かう。
- ・保育者が霜柱を見つけ、子どもたちに見せる。
- ・子どもたちがそれぞれ霜柱を探し、観察を楽しむ。
- ・氷の感触、霜柱との違いを知る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

- ・顕微鏡付き虫かご
- ・氷
- ・カップ、スプーン

4. 探究活動の実践（子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり）



遊歩道の地面が濡れているところを見つけ、保育者が土を掘ってみる。白く結晶っぽくなっていたり、短い霜柱を発見したところ。「これ何だろう？」と友だち同士で話す場面も見られた。



自分たちでも霜柱を探し、発見したものを保育者や友だちと共有しているところ。「白いね」「冷たいね」と気が付いたことを口々に言う。自分たちで大きい物を探したい、という気持ちがあり、それぞれ意欲的に探していた。



霜柱との対比をするために氷を用意して持っていき、氷に触れてみる。氷が溶けたら何になる？と保育者が聞くと、「水になる！」と答える。「氷はかたいね」と霜柱との違いに気付く子もいる。

5. 振り返り

- ・環境が整わず、期待していたほどの霜柱は見つけれなかった。寒さは厳しかったが、それだけでは霜柱ができないことも分かった。日にちを設定するのではなく、見つけた時に観察できるのが理想だと感じた。
- ・小さかったが子どもたちも自分で霜柱を見つけることができ、発見を保育者や友だち同士報告しあう姿が見られた。氷との違いも何となくだが分かっているようだった。

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

年間テーマ	自然との関わり
園名	なでしこ保育園
クラス	うさぎ組 2歳児
活動日	令和7年3月6日

1. 活動テーマ

《テーマ》

第6回目 自然物を使った遊びを楽しむ

《テーマ設定理由》

今年度最後のすくわくプログラムであり、何度か自然物に触れている。まとめとして、子どもが何に興味を示し、普段あまり触れる事のない枝を使う事を良しとする事でどのようなものを集め、遊びを展開するかを知る。

2. 活動内容

それぞれ子どもの興味のある自然物を集め、一つの場所に集める。その後、集めた自然物を使って自由に遊んでみる

集めた自然物を置くためのビニール袋 お散歩バック

4. 探究活動の実践（子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり）

今年度最後という事もあり、まとめとして子どもの好きな自然物を集めてよい事を話する。普段、あまり遊ぶ機会の少ない枝を集めても良い事を話すと、不思議そうな表情が見られた。集める際には子ども同士でやりとりをしながら探す姿も見られた。まとめると枝が多く集まる。自由に遊んで良い事を話すと、どうしよう？と考える様子が見られ、「たいこ」と言って1人が遊び始めると、それぞれが真似たり、遊ぶ姿が見られた。それぞれの枝を合わせ 八幡神社のトンネル 木の枝をまわしてコマ 木と花を並べてフラワーのお家 どんぐりに枝をのせてお寿司などそれぞれが考え時間いっぱい遊ぶ事が出来ている。



太鼓



フラワーのお家

5. 振り返り

一つの場所では、限られた自然物しかない事もあり、途中から場所を移動して自然物を探している。探す事や場所移動に時間がかかり、遊びに夢中になり始めた頃に、時間となってしまった。目的の場所までにも、様々な自然物もあった為、見つけながら歩いてよかった。集めたもので、保育者が声がけがなくても、1人の子どもが遊び始めると、それぞれが遊び始める様子が見られた。